

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	人工知能学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実 習
科 目 名	卒業研究		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	600 (20) 時間(単位)
対 象 学 年	3年		学期及び曜時限	通年	教室名	302教室,ロボ実
担 当 教 員	安達 隆之・臼井 壮 大・赤澤 夏郎	実務経験と その関連資格	化粧品会社にて、基礎研究(研究開発室)・美容機器開発(開発部)・官能評価(美容研究課)・製品企画(マーケティング部)・原価管理(製品管理課)・人事全般(人事部)の業務を10年にわたり担当(安達)			
《授業科目における学習内容》						
卒業研究のテーマ検討、計画立案、準備、作業、ディスカッション、発表準備、プレゼンテーション等を通じ、3年間学び得た知識・技術をまとめた制作物を作成し、知識・技術の向上及び定着、社会人基礎力の向上を図り、社会人となる準備となす。						
《成績評価の方法と基準》						
制作に対する取り組みの姿勢と役割、グループへの貢献を考慮して評価を行う 1 提出物、発表内容:35% 2 授業態度、姿勢:35% 3 出席点:20% 平常点:10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
これまでのテキスト、マニュアルなどを使用						
《授業外における学習方法》						
インターネットや図書室を利用したの文献調査、課題制作、発表準備						
《履修に当たっての留意点》						
卒業研究は、これまで身に付けた技術・知識を向上させ、実践力を高め、即戦力足り得る社会人を目指す良い機会となる。課題・製作物、結果を意識して取り組むことを望む。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	社会の課題・ニーズの調査を行い、卒業研究のテーマを決定する	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	テーマ決定①			
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	社会の課題・ニーズの調査を行い、卒業研究のテーマを決定する	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	テーマ決定②			
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	社会の課題・ニーズの調査を行い、卒業研究のテーマを決定する	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	テーマ決定③			
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	社会の課題・ニーズの調査を行い、卒業研究のテーマを決定する	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	テーマ決定④			
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	社会の課題・ニーズの調査を行い、卒業研究のテーマを決定する	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	テーマ決定⑤			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	社会の課題・ニーズの調査を行い、卒業研究のテーマを決定する	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	テーマ決定⑥		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	社会の課題・ニーズの調査を行い、卒業研究のテーマを決定する	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	テーマ決定⑦		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	社会の課題・ニーズの調査を行い、卒業研究のテーマを決定する	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	テーマ決定⑧		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	選定した卒業研究テーマと、そのスケジュールについて報告会にて報告する	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	テーマ報告とスケジューリング①		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	選定した卒業研究テーマと、そのスケジュールについて報告会にて報告する	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	テーマ報告とスケジューリング②		
第11回	実習形式	授業を通じての到達目標	選定した卒業研究テーマと、そのスケジュールについて報告会にて報告する	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	テーマ報告とスケジューリング③		
第12回	実習形式	授業を通じての到達目標	選定した卒業研究テーマと、そのスケジュールについて報告会にて報告する	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	テーマ報告とスケジューリング④		
第13回	実習形式	授業を通じての到達目標	選定した卒業研究テーマと、そのスケジュールについて報告会にて報告する	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	テーマ報告会		
第14回	実習形式	授業を通じての到達目標	選定した卒業研究テーマと、そのスケジュールについて報告会にて報告する	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	テーマ報告会		
第15回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(1/4)①		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	人工知能学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実 習
科 目 名	卒業研究		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	600 (20) 時間(単位)
対 象 学 年	3年		学期及び曜時限	通年	教室名	302教室,ロボ実
担 当 教 員	安達 隆之・白井 壮大・赤澤 夏郎	実務経験とその関連資格	化粧品会社にて、基礎研究(研究開発室)・美容機器開発(開発部)・官能評価(美容研究課)・製品企画(マーケティング部)・原価管理(製品管理課)・人事全般(人事部)の業務を10年にわたり担当(安達)			
《授業科目における学習内容》						
卒業研究のテーマ検討、計画立案、準備、作業、ディスカッション、発表準備、プレゼンテーション等を通じ、3年間学び得た知識・技術をまとめた制作物を作成し、知識・技術の向上及び定着、社会人基礎力の向上を図り、社会人となる準備となす。						
《成績評価の方法と基準》						
制作に対する取り組みの姿勢と役割、グループへの貢献を考慮して評価を行う 1 提出物、発表内容:35% 2 授業態度、姿勢:35% 3 出席点:20% 平常点:10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
これまでのテキスト、マニュアルなどを使用						
《授業外における学習方法》						
インターネットや図書室を利用したの文献調査、課題制作、発表準備						
《履修に当たっての留意点》						
卒業研究は、これまで身に付けた技術・知識を向上させ、実践力を高め、即戦力足り得る社会人を目指す良い機会となる。課題・製作物、結果を意識して取り組むことを望む。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第16回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(1/4)②			
第17回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(1/4)③			
第18回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(1/4)④			
第19回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(1/4)⑤			
第20回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(1/4)⑥			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第21回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(1/4)⑦		
第22回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(1/4)⑧		
第23回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(1/4)⑨		
第24回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(1/4)⑩		
第25回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(1/4)⑪		
第26回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(1/4)⑫		
第27回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(1/4)⑬		
第28回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(1/4)⑭		
第29回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(1/4)⑮		
第30回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(1/4)⑯		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	人工知能学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実 習
科 目 名	卒業研究		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	600 (20) 時間(単位)
対 象 学 年	3年		学期及び曜時限	通年	教室名	302教室,ロボ実
担 当 教 員	安達 隆之・白井 壮大・赤澤 夏郎	実務経験とその関連資格	化粧品会社にて、基礎研究(研究開発室)・美容機器開発(開発部)・官能評価(美容研究課)・製品企画(マーケティング部)・原価管理(製品管理課)・人事全般(人事部)の業務を10年にわたり担当(安達)			
《授業科目における学習内容》						
卒業研究のテーマ検討、計画立案、準備、作業、ディスカッション、発表準備、プレゼンテーション等を通じ、3年間学び得た知識・技術をまとめた制作物を作成し、知識・技術の向上及び定着、社会人基礎力の向上を図り、社会人となる準備となす。						
《成績評価の方法と基準》						
制作に対する取り組みの姿勢と役割、グループへの貢献を考慮して評価を行う 1 提出物、発表内容:35% 2 授業態度、姿勢:35% 3 出席点:20% 平常点:10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
これまでのテキスト、マニュアルなどを使用						
《授業外における学習方法》						
インターネットや図書室を利用したの文献調査、課題制作、発表準備						
《履修に当たっての留意点》						
卒業研究は、これまで身に付けた技術・知識を向上させ、実践力を高め、即戦力足り得る社会人を目指す良い機会となる。課題・製作物、結果を意識して取り組むことを望む。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第31回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(1/4)⑦			
第32回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(1/4)⑧			
第33回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(1/4)⑨			
第34回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(1/4)⑩			
第35回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施⑪			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第36回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(1/4)㉒		
第37回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(1/4)㉓		
第38回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(1/4)㉔		
第39回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(1/4)㉕		
第40回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(1/4)㉖		
第41回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(1/4)㉗		
第42回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(1/4)㉘		
第43回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(1/4)㉙		
第44回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(1/4)㉚		
第45回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(1/4)㉛		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	人工知能学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	卒業研究		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	600 (20) 時間(単位)
対 象 学 年	3年		学期及び曜時限	通年	教室名	302教室,ロボ実
担 当 教 員	安達 隆之・白井 壮大・赤澤 夏郎	実務経験とその関連資格	化粧品会社にて、基礎研究(研究開発室)・美容機器開発(開発部)・官能評価(美容研究課)・製品企画(マーケティング部)・原価管理(製品管理課)・人事全般(人事部)の業務を10年にわたり担当(安達)			
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>卒業研究のテーマ検討、計画立案、準備、作業、ディスカッション、発表準備、プレゼンテーション等を通じ、3年間学び得た知識・技術をまとめた制作物を作成し、知識・技術の向上及び定着、社会人基礎力の向上を図り、社会人となる準備となす。</p>						
<p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>制作に対する取り組みの姿勢と役割、グループへの貢献を考慮して評価を行う</p> <p>1 提出物、発表内容:35% 2 授業態度、姿勢:35% 3 出席点:20% 平常点:10%</p>						
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>これまでのテキスト、マニュアルなどを使用</p>						
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>インターネットや図書室を利用したの文献調査、課題制作、発表準備</p>						
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>卒業研究は、これまで身に付けた技術・知識を向上させ、実践力を高め、即戦力足り得る社会人を目指す良い機会となる。課題・製作物、結果を意識して取り組むことを望む。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第46回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(1/4)㉔			
第47回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(1/4)㉕			
第48回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(1/4)㉖			
第49回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(1/4)㉗			
第50回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(1/4)㉘			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第51回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(1/4)㉗		
第52回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(1/4)㉘		
第53回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(1/4)㉙		
第54回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(1/4)㉚		
第55回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(1/4)㉛		
第56回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(1/4)㉜		
第57回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(1/4)㉝		
第58回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(1/4)㉞		
第59回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(1/4)㉟		
第60回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(1/4)㊱		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	人工知能学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実 習
科 目 名	卒業研究		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	600 (20) 時間(単位)
対 象 学 年	3年		学期及び曜時限	通年	教室名	302教室,ロボ実
担 当 教 員	安達 隆之・白井 壮大・赤澤 夏郎	実務経験とその関連資格	化粧品会社にて、基礎研究(研究開発室)・美容機器開発(開発部)・官能評価(美容研究課)・製品企画(マーケティング部)・原価管理(製品管理課)・人事全般(人事部)の業務を10年にわたり担当(安達)			
《授業科目における学習内容》						
卒業研究のテーマ検討、計画立案、準備、作業、ディスカッション、発表準備、プレゼンテーション等を通じ、3年間学び得た知識・技術をまとめた制作物を作成し、知識・技術の向上及び定着、社会人基礎力の向上を図り、社会人となる準備とす。						
《成績評価の方法と基準》						
制作に対する取り組みの姿勢と役割、グループへの貢献を考慮して評価を行う 1 提出物、発表内容:35% 2 授業態度、姿勢:35% 3 出席点:20% 平常点:10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
これまでのテキスト、マニュアルなどを使用						
《授業外における学習方法》						
インターネットや図書室を利用したの文献調査、課題制作、発表準備						
《履修に当たっての留意点》						
卒業研究は、これまで身に付けた技術・知識を向上させ、実践力を高め、即戦力足り得る社会人を目指す良い機会となる。課題・製作物、結果を意識して取り組むことを望む。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第61回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(1/4)㉗			
第62回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(1/4)㉘			
第63回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(1/4)㉙			
第64回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(1/4)㉚			
第65回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとに調査・研究結果の整理を行う	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	1Qの成果の整理と今後のスケジュール検討①			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第66回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとに調査・研究結果の整理を行う	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	1Qの成果の整理と今後のスケジュール検討②		
第67回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとに調査・研究結果の整理を行う	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	1Qの成果の整理と今後のスケジュール検討③		
第68回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとに調査・研究結果の整理を行う	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	1Qの成果の整理と今後のスケジュール検討④		
第69回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとに調査・研究結果の整理を行う	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	1Qの成果の整理と今後のスケジュール検討⑤		
第70回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとに調査・研究結果の整理を行う	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	1Qの成果の整理と今後のスケジュール検討⑥		
第71回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとに調査・研究結果の整理を行う	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	1Qの成果の整理と今後のスケジュール検討⑦		
第72回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとに調査・研究結果の整理を行う	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	1Qの成果の整理と今後のスケジュール検討⑧		
第73回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとに調査・研究結果の整理を行う	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	1Qの成果の整理と今後のスケジュール検討⑨		
第74回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとに調査・研究結果の整理を行う	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	1Qの成果の整理と今後のスケジュール検討⑩		
第75回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとに調査・研究結果の整理を行う	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	1Qの成果報告会		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	人工知能学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	卒業研究		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	600 (20) 時間(単位)
対 象 学 年	3年		学期及び曜時限	通年	教室名	302教室,ロボ実
担 当 教 員	安達 隆之・白井 壮大・赤澤 夏郎	実務経験とその関連資格	化粧品会社にて、基礎研究(研究開発室)・美容機器開発(開発部)・官能評価(美容研究課)・製品企画(マーケティング部)・原価管理(製品管理課)・人事全般(人事部)の業務を10年にわたり担当(安達)			
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>卒業研究のテーマ検討、計画立案、準備、作業、ディスカッション、発表準備、プレゼンテーション等を通じ、3年間学び得た知識・技術をまとめた制作物を作成し、知識・技術の向上及び定着、社会人基礎力の向上を図り、社会人となる準備とす。</p>						
<p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>制作に対する取り組みの姿勢と役割、グループへの貢献を考慮して評価を行う</p> <p>1 提出物、発表内容:35%</p> <p>2 授業態度、姿勢:35%</p> <p>3 出席点:20% 平常点:10%</p>						
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>これまでのテキスト、マニュアルなどを使用</p>						
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>インターネットや図書室を利用したの文献調査、課題制作、発表準備</p>						
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>卒業研究は、これまで身に付けた技術・知識を向上させ、実践力を高め、即戦力足り得る社会人を目指す良い機会となる。課題・製作物、結果を意識して取り組むことを望む。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第76回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(2/4)①			
第77回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(2/4)②			
第78回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(2/4)③			
第79回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(2/4)④			
第80回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(2/4)⑤			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第81回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(2/4)⑥		
第82回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(2/4)⑦		
第83回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(2/4)⑧		
第84回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(2/4)⑨		
第85回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(2/4)⑩		
第86回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(2/4)⑪		
第87回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(2/4)⑫		
第88回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(2/4)⑬		
第89回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(2/4)⑭		
第90回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(2/4)⑮		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	人工知能学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	卒業研究		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	600 (20) 時間(単位)
対 象 学 年	3年		学期及び曜時限	通年	教室名	302教室,ロボ実
担 当 教 員	安達 隆之・白井 壮大・赤澤 夏郎	実務経験とその関連資格	化粧品会社にて、基礎研究(研究開発室)・美容機器開発(開発部)・官能評価(美容研究課)・製品企画(マーケティング部)・原価管理(製品管理課)・人事全般(人事部)の業務を10年にわたり担当(安達)			
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>卒業研究のテーマ検討、計画立案、準備、作業、ディスカッション、発表準備、プレゼンテーション等を通じ、3年間学び得た知識・技術をまとめた制作物を作成し、知識・技術の向上及び定着、社会人基礎力の向上を図り、社会人となる準備とす。</p>						
<p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>制作に対する取り組みの姿勢と役割、グループへの貢献を考慮して評価を行う</p> <p>1 提出物、発表内容:35% 2 授業態度、姿勢:35% 3 出席点:20% 平常点:10%</p>						
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>これまでのテキスト、マニュアルなどを使用</p>						
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>インターネットや図書室を利用したの文献調査、課題制作、発表準備</p>						
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>卒業研究は、これまで身に付けた技術・知識を向上させ、実践力を高め、即戦力足り得る社会人を目指す良い機会となる。課題・製作物、結果を意識して取り組むことを望む。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第91回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(2/4)⑩			
第92回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(2/4)⑪			
第93回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(2/4)⑫			
第94回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(2/4)⑬			
第95回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(2/4)⑭			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第96回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(2/4)㉑		
第97回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(2/4)㉒		
第98回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(2/4)㉓		
第99回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(2/4)㉔		
第100回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(2/4)㉕		
第101回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(2/4)㉖		
第102回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(2/4)㉗		
第103回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(2/4)㉘		
第104回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(2/4)㉙		
第105回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(2/4)㉚		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	人工知能学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	卒業研究		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	600 (20) 時間(単位)
対 象 学 年	3年		学期及び曜時限	通年	教室名	302教室,ロボ実
担 当 教 員	安達 隆之・白井 壮大・赤澤 夏郎	実務経験とその関連資格	化粧品会社にて、基礎研究(研究開発室)・美容機器開発(開発部)・官能評価(美容研究課)・製品企画(マーケティング部)・原価管理(製品管理課)・人事全般(人事部)の業務を10年にわたり担当(安達)			
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>卒業研究のテーマ検討、計画立案、準備、作業、ディスカッション、発表準備、プレゼンテーション等を通じ、3年間学び得た知識・技術をまとめた制作物を作成し、知識・技術の向上及び定着、社会人基礎力の向上を図り、社会人となる準備となす。</p>						
<p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>制作に対する取り組みの姿勢と役割、グループへの貢献を考慮して評価を行う</p> <p>1 提出物、発表内容:35%</p> <p>2 授業態度、姿勢:35%</p> <p>3 出席点:20% 平常点:10%</p>						
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>これまでのテキスト、マニュアルなどを使用</p>						
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>インターネットや図書室を利用したの文献調査、課題制作、発表準備</p>						
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>卒業研究は、これまで身に付けた技術・知識を向上させ、実践力を高め、即戦力足り得る社会人を目指す良い機会となる。課題・製作物、結果を意識して取り組むことを望む。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第106回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(2/4)㉑			
第107回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(2/4)㉒			
第108回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(2/4)㉓			
第109回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(2/4)㉔			
第110回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(2/4)㉕			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第111回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(2/4)㉞		
第112回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(2/4)㉟		
第113回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(2/4)㊱		
第114回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(2/4)㊲		
第115回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(2/4)㊳		
第116回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(2/4)㊴		
第117回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(2/4)㊵		
第118回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(2/4)㊶		
第119回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(2/4)㊷		
第120回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(2/4)㊸		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	人工知能学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	卒業研究		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	600 (20) 時間(単位)
対 象 学 年	3年		学期及び曜時限	通年	教室名	302教室,ロボ実
担 当 教 員	安達 隆之・臼井 壮 大・赤澤 夏郎	実務経験と その関連資格	化粧品会社にて、基礎研究(研究開発室)・美容機器開発(開発部)・官能評価(美容研究課)・製品企画(マーケティング部)・原価管理(製品管理課)・人事全般(人事部)の業務を10年にわたり担当(安達)			
《授業科目における学習内容》						
卒業研究のテーマ検討、計画立案、準備、作業、ディスカッション、発表準備、プレゼンテーション等を通じ、3年間学び得た知識・技術をまとめた制作物を作成し、知識・技術の向上及び定着、社会人基礎力の向上を図り、社会人となる準備となす。						
《成績評価の方法と基準》						
制作に対する取り組みの姿勢と役割、グループへの貢献を考慮して評価を行う 1 提出物、発表内容:35% 2 授業態度、姿勢:35% 3 出席点:20% 平常点:10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
これまでのテキスト、マニュアルなどを使用						
《授業外における学習方法》						
インターネットや図書室を利用したの文献調査、課題制作、発表準備						
《履修に当たっての留意点》						
卒業研究は、これまで身に付けた技術・知識を向上させ、実践力を高め、即戦力足り得る社会人を目指す良い機会となる。課題・製作物、結果を意識して取り組むことを望む。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第121回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(2/4)⑥			
第122回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(2/4)⑦			
第123回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(2/4)⑧			
第124回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(2/4)⑨			
第125回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(2/4)⑩			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第126回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとに調査・研究結果の整理を行う	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	2Qの成果の整理と今後のスケジュール検討①		
第127回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとに調査・研究結果の整理を行う	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	2Qの成果の整理と今後のスケジュール検討②		
第128回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとに調査・研究結果の整理を行う	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	2Qの成果の整理と今後のスケジュール検討③		
第129回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとに調査・研究結果の整理を行う	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	2Qの成果の整理と今後のスケジュール検討④		
第130回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとに調査・研究結果の整理を行う	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	2Qの成果の整理と今後のスケジュール検討⑤		
第131回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとに調査・研究結果の整理を行う	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	2Qの成果の整理と今後のスケジュール検討⑥		
第132回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとに調査・研究結果の整理を行う	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	2Qの成果の整理と今後のスケジュール検討⑦		
第133回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとに調査・研究結果の整理を行う	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	2Qの成果の整理と今後のスケジュール検討⑧		
第134回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとに調査・研究結果の整理を行う	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	2Qの成果の整理と今後のスケジュール検討⑨		
第135回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとに調査・研究結果の整理を行う	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	2Qの成果の整理と今後のスケジュール検討⑩		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	人工知能学科	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実 習
科 目 名	卒業研究	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	600 (20) 時間(単位)
対 象 学 年	3年	学期及び曜時限	通年	教室名	302教室,ロボ実
担 当 教 員	安達 隆之・臼井 壮大・赤澤 夏郎	実務経験とその関連資格	化粧品会社にて、基礎研究(研究開発室)・美容機器開発(開発部)・官能評価(美容研究課)・製品企画(マーケティング部)・原価管理(製品管理課)・人事全般(人事部)の業務を10年にわたり担当(安達)		

《授業科目における学習内容》

卒業研究のテーマ検討、計画立案、準備、作業、ディスカッション、発表準備、プレゼンテーション等を通じ、3年間学び得た知識・技術をまとめた制作物を作成し、知識・技術の向上及び定着、社会人基礎力の向上を図り、社会人となる準備となす。

《成績評価の方法と基準》

制作に対する取り組みの姿勢と役割、グループへの貢献を考慮して評価を行う

- 1 提出物、発表内容:35%
- 2 授業態度、姿勢:35%
- 3 出席点:20% 平常点:10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

これまでのテキスト、マニュアルなどを使用

《授業外における学習方法》

インターネットや図書室を利用したの文献調査、課題制作、発表準備

《履修に当たっての留意点》

卒業研究は、これまで身に付けた技術・知識を向上させ、実践力を高め、即戦力足り得る社会人を目指す良い機会となる。課題・製作物、結果を意識して取り組むことを望む。

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第136回 実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとに調査・研究結果の整理を行う	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
	各コマにおける授業予定	2Qの成果の整理と今後のスケジュール検討⑪		
第137回 実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとに調査・研究結果の整理を行う	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
	各コマにおける授業予定	2Qの成果の整理と今後のスケジュール検討⑫		
第138回 実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとに調査・研究結果の整理を行う	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
	各コマにおける授業予定	2Qの成果の整理と今後のスケジュール検討⑬		
第139回 実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとに調査・研究結果の整理を行う	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
	各コマにおける授業予定	2Qの成果の整理と今後のスケジュール検討⑭		
第140回 実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとに調査・研究結果の整理を行う	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
	各コマにおける授業予定	2Qの成果の整理と今後のスケジュール検討⑮		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外の準備学習の具体的な内容
第141回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとに調査・研究結果の整理を行う	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	2Qの成果の整理と今後のスケジュール検討⑯		
第142回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとに調査・研究結果の整理を行う	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	2Qの成果の整理と今後のスケジュール検討⑰		
第143回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとに調査・研究結果の整理を行う	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	2Qの成果の整理と今後のスケジュール検討⑱		
第144回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとに調査・研究結果の整理を行う	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	2Qの成果の整理と今後のスケジュール検討⑲		
第145回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとに調査・研究結果の整理を行う	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	2Qの成果の整理と今後のスケジュール検討⑳		
第146回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとに調査・研究結果の整理を行う	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	2Qの成果の整理と今後のスケジュール検討㉑		
第147回	実習形式	授業を通じての到達目標	現段階の卒業研究の進捗を発表の準備をする	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	2Q進捗報告会準備		
第148回	実習形式	授業を通じての到達目標	現段階の卒業研究の進捗を発表の準備をする	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	2Q進捗報告会準備		
第149回	実習形式	授業を通じての到達目標	現段階の卒業研究の進捗を発表する	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	2Q進捗報告会		
第150回	実習形式	授業を通じての到達目標	現段階の卒業研究の進捗を発表する	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	2Q進捗報告会		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	人工知能学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	卒業研究		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	600 (20) 時間(単位)
対 象 学 年	3年		学期及び曜時限	通年	教室名	302教室,ロボ実
担 当 教 員	安達 隆之・白井 壮大・赤澤 夏郎	実務経験とその関連資格	化粧品会社にて、基礎研究(研究開発室)・美容機器開発(開発部)・官能評価(美容研究課)・製品企画(マーケティング部)・原価管理(製品管理課)・人事全般(人事部)の業務を10年にわたり担当(安達)			
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>卒業研究のテーマ検討、計画立案、準備、作業、ディスカッション、発表準備、プレゼンテーション等を通じ、3年間学び得た知識・技術をまとめた制作物を作成し、知識・技術の向上及び定着、社会人基礎力の向上を図り、社会人となる準備とす。</p>						
<p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>制作に対する取り組みの姿勢と役割、グループへの貢献を考慮して評価を行う</p> <p>1 提出物、発表内容:35%</p> <p>2 授業態度、姿勢:35%</p> <p>3 出席点:20% 平常点:10%</p>						
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>これまでのテキスト、マニュアルなどを使用</p>						
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>インターネットや図書室を利用したの文献調査、課題制作、発表準備</p>						
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>卒業研究は、これまで身に付けた技術・知識を向上させ、実践力を高め、即戦力足り得る社会人を目指す良い機会となる。課題・製作物、結果を意識して取り組むことを望む。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第151回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(3/4)①			
第152回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(3/4)②			
第153回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(3/4)③			
第154回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(3/4)④			
第155回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(3/4)⑤			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第156回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(3/4)⑥		
第157回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(3/4)⑦		
第158回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(3/4)⑧		
第159回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(3/4)⑨		
第160回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(3/4)⑩		
第161回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(3/4)⑪		
第162回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(3/4)⑫		
第163回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(3/4)⑬		
第164回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(3/4)⑭		
第165回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(3/4)⑮		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	人工知能学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	卒業研究		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	600 (20) 時間(単位)
対 象 学 年	3年		学期及び曜時限	通年	教室名	302教室,ロボ実
担 当 教 員	安達 隆之・白井 壮大・赤澤 夏郎	実務経験とその関連資格	化粧品会社にて、基礎研究(研究開発室)・美容機器開発(開発部)・官能評価(美容研究課)・製品企画(マーケティング部)・原価管理(製品管理課)・人事全般(人事部)の業務を10年にわたり担当(安達)			
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>卒業研究のテーマ検討、計画立案、準備、作業、ディスカッション、発表準備、プレゼンテーション等を通じ、3年間学び得た知識・技術をまとめた制作物を作成し、知識・技術の向上及び定着、社会人基礎力の向上を図り、社会人となる準備とす。</p>						
<p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>制作に対する取り組みの姿勢と役割、グループへの貢献を考慮して評価を行う</p> <p>1 提出物、発表内容:35% 2 授業態度、姿勢:35% 3 出席点:20% 平常点:10%</p>						
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>これまでのテキスト、マニュアルなどを使用</p>						
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>インターネットや図書室を利用したの文献調査、課題制作、発表準備</p>						
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>卒業研究は、これまで身に付けた技術・知識を向上させ、実践力を高め、即戦力足り得る社会人を目指す良い機会となる。課題・製作物、結果を意識して取り組むことを望む。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第166回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(3/4)⑩			
第167回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(3/4)⑪			
第168回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(3/4)⑫			
第169回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(3/4)⑬			
第170回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(3/4)⑭			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第171回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(3/4)㉑		
第172回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(3/4)㉒		
第173回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(3/4)㉓		
第174回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(3/4)㉔		
第175回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(3/4)㉕		
第176回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(3/4)㉖		
第177回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(3/4)㉗		
第178回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(3/4)㉘		
第179回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(3/4)㉙		
第180回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(3/4)㉚		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	人工知能学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実 習
科 目 名	卒業研究		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	600 (20) 時間(単位)
対 象 学 年	3年		学期及び曜時限	通年	教室名	302教室,ロボ実
担 当 教 員	安達 隆之・白井 壮大・赤澤 夏郎	実務経験とその関連資格	化粧品会社にて、基礎研究(研究開発室)・美容機器開発(開発部)・官能評価(美容研究課)・製品企画(マーケティング部)・原価管理(製品管理課)・人事全般(人事部)の業務を10年にわたり担当(安達)			
《授業科目における学習内容》						
卒業研究のテーマ検討、計画立案、準備、作業、ディスカッション、発表準備、プレゼンテーション等を通じ、3年間学び得た知識・技術をまとめた制作物を作成し、知識・技術の向上及び定着、社会人基礎力の向上を図り、社会人となる準備となす。						
《成績評価の方法と基準》						
制作に対する取り組みの姿勢と役割、グループへの貢献を考慮して評価を行う 1 提出物、発表内容:35% 2 授業態度、姿勢:35% 3 出席点:20% 平常点:10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
これまでのテキスト、マニュアルなどを使用						
《授業外における学習方法》						
インターネットや図書室を利用したの文献調査、課題制作、発表準備						
《履修に当たっての留意点》						
卒業研究は、これまで身に付けた技術・知識を向上させ、実践力を高め、即戦力足り得る社会人を目指す良い機会となる。課題・製作物、結果を意識して取り組むことを望む。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第181回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(3/4)㉑			
第182回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(3/4)㉒			
第183回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(3/4)㉓			
第184回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(3/4)㉔			
第185回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(3/4)㉕			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第186回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(3/4)㉞		
第187回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(3/4)㉟		
第188回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(3/4)㊸		
第189回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(3/4)㊹		
第190回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(3/4)㊺		
第191回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(3/4)㊻		
第192回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(3/4)㊼		
第193回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(3/4)㊽		
第194回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(3/4)㊾		
第195回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(3/4)㊿		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	人工知能学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	卒業研究		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	600 (20) 時間(単位)
対 象 学 年	3年		学期及び曜時限	通年	教室名	302教室,ロボ実
担 当 教 員	安達 隆之・白井 壮大・赤澤 夏郎	実務経験とその関連資格	化粧品会社にて、基礎研究(研究開発室)・美容機器開発(開発部)・官能評価(美容研究課)・製品企画(マーケティング部)・原価管理(製品管理課)・人事全般(人事部)の業務を10年にわたり担当(安達)			
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>卒業研究のテーマ検討、計画立案、準備、作業、ディスカッション、発表準備、プレゼンテーション等を通じ、3年間学び得た知識・技術をまとめた制作物を作成し、知識・技術の向上及び定着、社会人基礎力の向上を図り、社会人となる準備とす。</p>						
<p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>制作に対する取り組みの姿勢と役割、グループへの貢献を考慮して評価を行う</p> <p>1 提出物、発表内容:35% 2 授業態度、姿勢:35% 3 出席点:20% 平常点:10%</p>						
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>これまでのテキスト、マニュアルなどを使用</p>						
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>インターネットや図書室を利用したの文献調査、課題制作、発表準備</p>						
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>卒業研究は、これまで身に付けた技術・知識を向上させ、実践力を高め、即戦力足り得る社会人を目指す良い機会となる。課題・製作物、結果を意識して取り組むことを望む。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第196回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(3/4)④			
第197回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(3/4)⑦			
第198回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(3/4)⑧			
第199回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(3/4)⑨			
第200回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(3/4)⑩			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第201回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとに調査・研究結果の整理を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	3Qの成果の整理と今後のスケジュール検討①		
第202回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとに調査・研究結果の整理を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	3Qの成果の整理と今後のスケジュール検討②		
第203回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとに調査・研究結果の整理を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	3Qの成果の整理と今後のスケジュール検討③		
第204回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとに調査・研究結果の整理を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	3Qの成果の整理と今後のスケジュール検討④		
第205回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとに調査・研究結果の整理を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	3Qの成果の整理と今後のスケジュール検討⑤		
第206回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとに調査・研究結果の整理を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	3Qの成果の整理と今後のスケジュール検討⑥		
第207回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとに調査・研究結果の整理を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	3Qの成果の整理と今後のスケジュール検討⑦		
第208回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとに調査・研究結果の整理を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	3Qの成果の整理と今後のスケジュール検討⑧		
第209回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとに調査・研究結果の整理を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	3Qの成果の整理と今後のスケジュール検討⑨		
第210回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとに調査・研究結果の整理を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	3Qの成果の整理と今後のスケジュール検討⑩		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	人工知能学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	卒業研究		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	600 (20) 時間(単位)
対 象 学 年	3年		学期及び曜時限	通年	教室名	302教室,ロボ実
担 当 教 員	安達 隆之・白井 壮大・赤澤 夏郎	実務経験とその関連資格	化粧品会社にて、基礎研究(研究開発室)・美容機器開発(開発部)・官能評価(美容研究課)・製品企画(マーケティング部)・原価管理(製品管理課)・人事全般(人事部)の業務を10年にわたり担当(安達)			
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>卒業研究のテーマ検討、計画立案、準備、作業、ディスカッション、発表準備、プレゼンテーション等を通じ、3年間学び得た知識・技術をまとめた制作物を作成し、知識・技術の向上及び定着、社会人基礎力の向上を図り、社会人となる準備とす。</p>						
<p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>制作に対する取り組みの姿勢と役割、グループへの貢献を考慮して評価を行う</p> <p>1 提出物、発表内容:35%</p> <p>2 授業態度、姿勢:35%</p> <p>3 出席点:20% 平常点:10%</p>						
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>これまでのテキスト、マニュアルなどを使用</p>						
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>インターネットや図書室を利用したの文献調査、課題制作、発表準備</p>						
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>卒業研究は、これまで身に付けた技術・知識を向上させ、実践力を高め、即戦力足り得る社会人を目指す良い機会となる。課題・製作物、結果を意識して取り組むことを望む。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第211回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとに調査・研究結果の整理を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)		課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	3Qの成果の整理と今後のスケジュール検討⑩			
第212回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとに調査・研究結果の整理を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)		課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	3Qの成果の整理と今後のスケジュール検討⑪			
第213回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとに調査・研究結果の整理を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)		課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	3Qの成果の整理と今後のスケジュール検討⑫			
第214回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとに調査・研究結果の整理を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)		課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	3Qの成果の整理と今後のスケジュール検討⑬			
第215回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとに調査・研究結果の整理を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)		課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	3Qの成果の整理と今後のスケジュール検討⑭			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第216回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとに調査・研究結果の整理を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	3Qの成果の整理と今後のスケジュール検討⑩		
第217回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとに調査・研究結果の整理を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	3Qの成果の整理と今後のスケジュール検討⑪		
第218回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとに調査・研究結果の整理を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	3Qの成果の整理と今後のスケジュール検討⑫		
第219回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとに調査・研究結果の整理を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	3Qの成果の整理と今後のスケジュール検討⑬		
第220回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとに調査・研究結果の整理を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	3Qの成果の整理と今後のスケジュール検討⑭		
第221回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとに調査・研究結果の整理を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	3Qの成果の整理と今後のスケジュール検討⑮		
第222回	実習形式	授業を通じての到達目標	現段階の卒業研究の進捗を発表する準備	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	3Q進捗報告会準備		
第223回	実習形式	授業を通じての到達目標	現段階の卒業研究の進捗を発表する準備	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	3Q進捗報告会準備		
第224回	実習形式	授業を通じての到達目標	現段階の卒業研究の進捗を発表する	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	3Q進捗報告会		
第225回	実習形式	授業を通じての到達目標	現段階の卒業研究の進捗を発表する	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	3Q進捗報告会		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	人工知能学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	卒業研究		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	600 (20) 時間(単位)
対 象 学 年	3年		学期及び曜時限	通年	教室名	302教室,ロボ実
担 当 教 員	安達 隆之・白井 壮大・赤澤 夏郎	実務経験とその関連資格	化粧品会社にて、基礎研究(研究開発室)・美容機器開発(開発部)・官能評価(美容研究課)・製品企画(マーケティング部)・原価管理(製品管理課)・人事全般(人事部)の業務を10年にわたり担当(安達)			
《授業科目における学習内容》						
卒業研究のテーマ検討、計画立案、準備、作業、ディスカッション、発表準備、プレゼンテーション等を通じ、3年間学び得た知識・技術をまとめた制作物を作成し、知識・技術の向上及び定着、社会人基礎力の向上を図り、社会人となる準備となす。						
《成績評価の方法と基準》						
制作に対する取り組みの姿勢と役割、グループへの貢献を考慮して評価を行う 1 提出物、発表内容:35% 2 授業態度、姿勢:35% 3 出席点:20% 平常点:10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
これまでのテキスト、マニュアルなどを使用						
《授業外における学習方法》						
インターネットや図書室を利用したの文献調査、課題制作、発表準備						
《履修に当たっての留意点》						
卒業研究は、これまで身に付けた技術・知識を向上させ、実践力を高め、即戦力足り得る社会人を目指す良い機会となる。課題・製作物、結果を意識して取り組むことを望む。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第226回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(4/4)①			
第227回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(4/4)②			
第228回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(4/4)③			
第229回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(4/4)④			
第230回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(4/4)⑤			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第231回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(4/4)⑥		
第232回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(4/4)⑦		
第233回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(4/4)⑧		
第234回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(4/4)⑨		
第235回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(4/4)⑩		
第236回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(4/4)⑪		
第237回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(4/4)⑫		
第238回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(4/4)⑬		
第239回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(4/4)⑭		
第240回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(4/4)⑮		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	人工知能学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	卒業研究		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	600 (20) 時間(単位)
対 象 学 年	3年		学期及び曜時限	通年	教室名	302教室,ロボ実
担 当 教 員	安達 隆之・白井 壮大・赤澤 夏郎	実務経験とその関連資格	化粧品会社にて、基礎研究(研究開発室)・美容機器開発(開発部)・官能評価(美容研究課)・製品企画(マーケティング部)・原価管理(製品管理課)・人事全般(人事部)の業務を10年にわたり担当(安達)			
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>卒業研究のテーマ検討、計画立案、準備、作業、ディスカッション、発表準備、プレゼンテーション等を通じ、3年間学び得た知識・技術をまとめた制作物を作成し、知識・技術の向上及び定着、社会人基礎力の向上を図り、社会人となる準備とす。</p>						
<p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>制作に対する取り組みの姿勢と役割、グループへの貢献を考慮して評価を行う</p> <p>1 提出物、発表内容:35%</p> <p>2 授業態度、姿勢:35%</p> <p>3 出席点:20% 平常点:10%</p>						
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>これまでのテキスト、マニュアルなどを使用</p>						
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>インターネットや図書室を利用した文献調査、課題制作、発表準備</p>						
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>卒業研究は、これまで身に付けた技術・知識を向上させ、実践力を高め、即戦力足り得る社会人を目指す良い機会となる。課題・製作物、結果を意識して取り組むことを望む。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第241回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(4/4)⑮			
第242回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(4/4)⑯			
第243回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(4/4)⑰			
第244回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(4/4)⑱			
第245回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(4/4)⑲			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第246回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(4/4)㉔		
第247回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(4/4)㉕		
第248回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(4/4)㉖		
第249回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(4/4)㉗		
第250回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(4/4)㉘		
第251回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(4/4)㉙		
第252回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(4/4)㉚		
第253回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(4/4)㉛		
第254回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(4/4)㉜		
第255回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(4/4)㉝		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	人工知能学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	卒業研究		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	600 (20) 時間(単位)
対 象 学 年	3年		学期及び曜時限	通年	教室名	302教室,ロボ実
担 当 教 員	安達 隆之・白井 壮大・赤澤 夏郎	実務経験とその関連資格	化粧品会社にて、基礎研究(研究開発室)・美容機器開発(開発部)・官能評価(美容研究課)・製品企画(マーケティング部)・原価管理(製品管理課)・人事全般(人事部)の業務を10年にわたり担当(安達)			
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>卒業研究のテーマ検討、計画立案、準備、作業、ディスカッション、発表準備、プレゼンテーション等を通じ、3年間学び得た知識・技術をまとめた制作物を作成し、知識・技術の向上及び定着、社会人基礎力の向上を図り、社会人となる準備とす。</p>						
<p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>制作に対する取り組みの姿勢と役割、グループへの貢献を考慮して評価を行う</p> <p>1 提出物、発表内容:35% 2 授業態度、姿勢:35% 3 出席点:20% 平常点:10%</p>						
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>これまでのテキスト、マニュアルなどを使用</p>						
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>インターネットや図書室を利用したの文献調査、課題制作、発表準備</p>						
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>卒業研究は、これまで身に付けた技術・知識を向上させ、実践力を高め、即戦力足り得る社会人を目指す良い機会となる。課題・製作物、結果を意識して取り組むことを望む。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第256回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(4/4)㉞			
第257回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(4/4)㉟			
第258回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(4/4)㊱			
第259回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(4/4)㊲			
第260回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(4/4)㊳			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第261回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(4/4)㉓		
第262回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(4/4)㉔		
第263回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(4/4)㉕		
第264回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(4/4)㉖		
第265回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(4/4)㉗		
第266回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(4/4)㉘		
第267回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(4/4)㉙		
第268回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(4/4)㉚		
第269回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(4/4)㉛		
第270回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(4/4)㉜		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	人工知能学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実 習
科 目 名	卒業研究		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	600 (20) 時間(単位)
対 象 学 年	3年		学期及び曜時限	通年	教室名	302教室,ロボ実
担 当 教 員	安達 隆之・白井 壮大・赤澤 夏郎	実務経験とその関連資格	化粧品会社にて、基礎研究(研究開発室)・美容機器開発(開発部)・官能評価(美容研究課)・製品企画(マーケティング部)・原価管理(製品管理課)・人事全般(人事部)の業務を10年にわたり担当(安達)			
《授業科目における学習内容》						
卒業研究のテーマ検討、計画立案、準備、作業、ディスカッション、発表準備、プレゼンテーション等を通じ、3年間学び得た知識・技術をまとめた制作物を作成し、知識・技術の向上及び定着、社会人基礎力の向上を図り、社会人となる準備となす。						
《成績評価の方法と基準》						
制作に対する取り組みの姿勢と役割、グループへの貢献を考慮して評価を行う 1 提出物、発表内容:35% 2 授業態度、姿勢:35% 3 出席点:20% 平常点:10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
これまでのテキスト、マニュアルなどを使用						
《授業外における学習方法》						
インターネットや図書室を利用したの文献調査、課題制作、発表準備						
《履修に当たっての留意点》						
卒業研究は、これまで身に付けた技術・知識を向上させ、実践力を高め、即戦力足り得る社会人を目指す良い機会となる。課題・製作物、結果を意識して取り組むことを望む。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第271回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(4/4)④			
第272回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(4/4)⑥			
第273回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(4/4)⑦			
第274回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(4/4)⑧			
第275回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(4/4)⑨			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第276回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとにスケジュールに沿って調査・研究を進める	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	各自・各チームごとに課題研究の作業実施(4/4)⑩		
第277回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとに今年度の卒業研究の成果を整理する	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	今年度の卒業研究の成果を整理①		
第278回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとに今年度の卒業研究の成果を整理する	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	今年度の卒業研究の成果を整理②		
第279回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとに今年度の卒業研究の成果を整理する	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	今年度の卒業研究の成果を整理③		
第280回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとに今年度の卒業研究の成果を整理する	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	今年度の卒業研究の成果を整理④		
第281回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとに今年度の卒業研究の成果を整理する	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	今年度の卒業研究の成果を整理⑤		
第282回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとに今年度の卒業研究の成果を整理する	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	今年度の卒業研究の成果を整理⑥		
第283回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとに今年度の卒業研究の成果を整理する	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	今年度の卒業研究の成果を整理⑦		
第284回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとに今年度の卒業研究の成果を整理する	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	今年度の卒業研究の成果を整理⑧		
第285回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとに今年度の卒業研究の成果を整理する	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	今年度の卒業研究の成果を整理⑨		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	人工知能学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	卒業研究		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	600 (20) 時間(単位)
対 象 学 年	3年		学期及び曜時限	通年	教室名	302教室,ロボ実
担 当 教 員	安達 隆之・白井 壮大・赤澤 夏郎	実務経験とその関連資格	化粧品会社にて、基礎研究(研究開発室)・美容機器開発(開発部)・官能評価(美容研究課)・製品企画(マーケティング部)・原価管理(製品管理課)・人事全般(人事部)の業務を10年にわたり担当(安達)			
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>卒業研究のテーマ検討、計画立案、準備、作業、ディスカッション、発表準備、プレゼンテーション等を通じ、3年間学び得た知識・技術をまとめた制作物を作成し、知識・技術の向上及び定着、社会人基礎力の向上を図り、社会人となる準備とす。</p>						
<p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>制作に対する取り組みの姿勢と役割、グループへの貢献を考慮して評価を行う</p> <p>1 提出物、発表内容:35% 2 授業態度、姿勢:35% 3 出席点:20% 平常点:10%</p>						
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>これまでのテキスト、マニュアルなどを使用</p>						
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>インターネットや図書室を利用したの文献調査、課題制作、発表準備</p>						
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>卒業研究は、これまで身に付けた技術・知識を向上させ、実践力を高め、即戦力足り得る社会人を目指す良い機会となる。課題・製作物、結果を意識して取り組むことを望む。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第286回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとに今年度の卒業研究の成果を整理する	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	今年度の卒業研究の成果を整理⑩			
第287回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとに今年度の卒業研究の成果を整理する	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	今年度の卒業研究の成果を整理⑪			
第288回	実習形式	授業を通じての到達目標	各自・各チームごとに今年度の卒業研究の成果を整理する	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	今年度の卒業研究の成果を整理⑫			
第289回	実習形式	授業を通じての到達目標	卒業研究の成果を報告する準備を行う	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	卒業研究発表準備①			
第290回	実習形式	授業を通じての到達目標	卒業研究の成果を報告する準備を行う	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること	
		各コマにおける授業予定	卒業研究発表準備②			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第291回	実習形式	授業を通じての到達目標	卒業研究の成果を報告する準備を行う	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	卒業研究発表準備③		
第292回	実習形式	授業を通じての到達目標	卒業研究の成果を報告する準備を行う	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	卒業研究発表準備④		
第293回	実習形式	授業を通じての到達目標	卒業研究の成果を報告する準備を行う	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	卒業研究発表準備⑤		
第294回	実習形式	授業を通じての到達目標	卒業研究の成果を報告する準備を行う	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	卒業研究発表準備⑥		
第295回	実習形式	授業を通じての到達目標	卒業研究の成果を報告する準備を行う	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	卒業研究発表準備⑦		
第296回	実習形式	授業を通じての到達目標	卒業研究の成果を報告する準備を行う	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	卒業研究発表準備⑧		
第297回	実習形式	授業を通じての到達目標	卒業研究の成果を報告する準備を行う	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	卒業研究発表準備⑨		
第298回	実習形式	授業を通じての到達目標	卒業研究の成果を報告する準備を行う	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	卒業研究発表準備⑩		
第299回	実習形式	授業を通じての到達目標	今年度実施した卒業研究の成果を発表する	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	卒業研究発表準備⑪		
第300回	実習形式	授業を通じての到達目標	今年度実施した卒業研究の成果を発表する	なし (適宜、図書館やインターネットの文献を参照すること)	課外を有効活用し、調査・研究を進めること
		各コマにおける授業予定	卒業研究発表準備⑫		